



大きな変更点

- 動詞に-**et**,-**sc**,**st**を追加
- 不規則動詞の改良
 - 例文の修正
- 格変化の諸規則の修正
 - 過去分詞の表し方
- 時制の変更(単純過去形消去→仏語の複合過去形をモチーフとした過去形を新設)←まだ未定

ヒューシェア語 <Cepriti! Hiuscien Wirdomef>

・概要

ヒューシェア語(歩:*Hiuscien Wirdomef*, ヒューシェア語発音[hjuʃɪən vi:doməf])は、ヒューシェアの言語、公用語。語順はSVO/ANである。

ヒューシェアの人口の大部分を占めるヒューシェア人がこの言語を話すことから、同国の国語とされている。母語話者数は推定でおよそ8200万人。

・話される国・地域

母語として

ヒューシェア共和国 - 7774万人

イシュモティア共和国 - 261万人

ハールツ公国 - 49万人

ボリュザモク民主共和国 - 13万人

オスカーランド合衆国 - 11万人

第二言語として

サーチャ国

ジャブラナ・バツハース共和国

カハウィア共和国

ムレムタ民主共和国

など

・言語系統

ハールツ語と共にヒューシツク語派を構成する。1~2世紀頃に編纂されたレギミア帝国の書物の中には「ウンディ人」や「リュガイイ人」といった、他のヒューシツク語派と思われる民族ならびにその言語の存在も確認できるが、いずれも現代に至るまで保存されておらず、資料も乏しい。

ペリヤ=ヒューゲル語族

↳ ヒューシツク語派

↳ 東ヤルディア語群(仮称)

↳ ヒューシェア語

↳ ヒューシェア語諸方言

・公的地位

ヒューシェア共和国では、国家基本法によって唯一の公用語および国語として定められており、名実ともに同国内の正式な公用語となっている。

また、ヒューシェア語の統制は文化長官が管轄する文化部とその下部組織である言語文学評議会が行っており、正書法や本書をはじめとする各語学書に掲載される「正しい」ヒューシェア語もこの評議会が決定している。

文字と発音

・文字

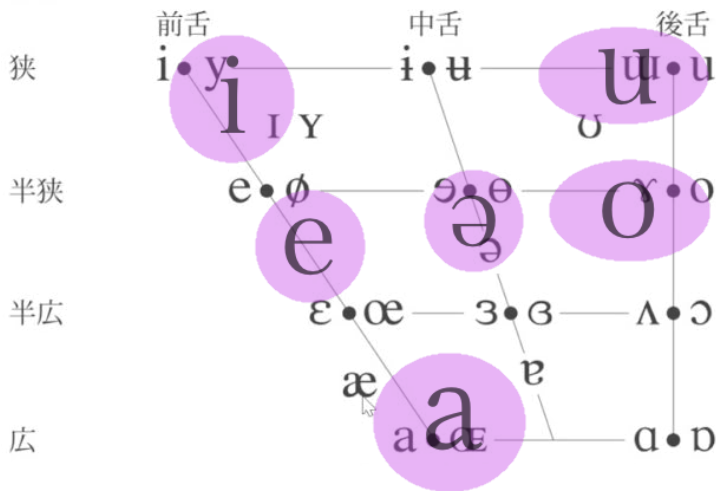
ヒューシェア語は基本的にラテン文字を使って表記する。西ボリュザモク民主共和国内のヒューシェア人はキリル文字を使用する場合もあるが、あまり一般的ではないのでここでは触れない。

使用される文字は英語アルファベットからQのみを除いた25文字。

・母音

ヒューシェア語では母音字はA,E,I,O,Uの五種類を使用するが、6種類の母音を弁別する。また、長短の区別がある。長母音は開音節の後にrが着いているか、二重母音である。

母音



1.母音字と発音

ここでは頻出する発音のみを掲載する。

例外発音は後述の「発音の諸則」を参照。

a[a]...日本語の「あ」。

e[e]...日本語の「え」に近い。

i[i~i]...やや「え」に近い「い」。

o[o]...日本語の「お」。語頭では[ʌ]となる。

u[u~u]...少しすぼめた「う」。

2.二重母音(母音)

ヒューシェア語には二重母音(*telen vokal*)と呼ばれる、2つの母音字で構成される音がある。

ai[e]...語頭や語末の音節では「エー」と伸ばす

au[o:]...ヒューシェア語のorと同じ音。

ou[u:]...ウーと伸ばす音。

3. アクセント記号

ヒューシェア語では基本的に第一音節に強勢を置くアクセントを取るが、“*Acent Fretef*”というアクセント記号(◌́)が着いている単語ではそこにアクセントを置く。

この記号がついた文字は*Freten A*(上昇のA,つまりÁ)といった具合に呼称される。

また、アクセントの置かれた音節ではeやaといった音は、例えば*Républik*[republik]といったように文字の通りの音で短母音より少し長く読まれる。例えば、先程紹介した*Républik*は表音上「レープブリク」と聞こえる。

・子音

子音字は20字存在する。また、二重子音*sc*を有する。ヒューシェア語では三重子音は許容されず、借用語においてもこれを持つ単語は形を変えて借用される。

1. 子音字と発音

ここでは最も頻出する発音の形を掲載する。

p[p]...ぱ行と同じ。

b[b]...ば行と同じ。

t[t]...た行と同じ。

d[d]...だ行と同じ。

k[k]...か行と同じ。

g[g]...が行と同じ。

s[s]...さ行と同じ。

z[ts]...つぁ行と同じ。

m[m]...ま行と同じ。

n[n]...な行と同じ。

f[f]...英語のf、唇を噛んで発音する。

v[v]...英語のvと同じ。

c[tʃ]...ちゃ行と同じ。

j[ʒ]...じゃ行とおなじ

h[h]...日本語の「は」と同じ。

r[r~R~r]...日本語の「ら」に近い。地域差が大きい

l[l]...英語のLと同音。舌を奥で使う。

x[x]...「ひゃ」に近い音。

y[j,i]...や行と同じ。語頭と固有名詞でのみ使用。

w[w]...わ行に近い音。

sc[ʃ]...二重音字。英語のshに近い発音。

・文字の名前

アルファベット順で記述する。

文字/発音/スペル/読み

A/a A[ə] ア

B/b Ber[bə:] バー

C/c Cer[tʃə:] チャー

D/d Der[də:] ダー

E/e E[ə] ア

F/f Ef[əf] アフ

G/g Ger[gə:] ガー

H/h Hac[hac] ハッチ

I/i I[ju] ュ

J/j Je[ʒə] ジャ

K/k Kar[ka:] カー

L/l El[əl] アル

M/m Em[əm] アム

N/n En[ən] アン

O/o O[ʌ] ア

P/p Per[pə:] パー

R/r Ar[ə:] アー

S/s Es[əs] アス

T/t Ter[tə:] ター

U/u U[u] ウ

V/v Ver[wə:] ワー

W/w Telen Ver[tələn wə:] タラン・ワー

X/x Xer[xjə:] ヒヤー

Y/y Ye[jə] ヤ

Z/z Zede[tsədə] ツアド

・発音の諸則

ヒューシェア語の発音規則はいささか複雑であるが、それでもフランス語よりは簡単である。

1. 母音

- ・単独で語頭のaは[ə]と発音する。
- ・単語の先頭のilは[ju]の音になる。
- ・第一音節のeは[ə]と発音する。
- ・最終音節のeも[ə]となる。

2. 子音

- ・語頭のvは[w]と発音する。
- ・語頭のwは[v]と発音する。
- ・vzの連続は[vz]と発音する。
- ・thは[t]と発音する。外来語・複合語に多い。
- ・tz, tsは[ts]と発音する。

- ・tcは[tʃ]と発音する。
- ・語頭のuは[ju]と発音されることが稀にある。
- ・ss,ttといった二重子音は日本語の「っ」の様に発音されるが、音素上弁別しない。
- ・i,eの前のgが口蓋化し、/ɟ/となる事がある。この発音は若者に多く、一種の社会方言である。

・外連声(リエゾン)

ヒューシェア語には外連声(リエゾンとも)と呼ばれる、単語間で音が結合し、別の音に変化する現象が見られる。

以下にその例を例文とともに記載する。

1.子音+h

最も多く見られるリエゾンの形である。

この形では連続する単語のうち前の方の終声子音が有声化する。また、その子音と子音クラスタを構成する子音もこの影響を受ける。いくつかの例を以下に示す。

例えば、

Aks hapet zoulus zinkef(私はよく言っていた)は

[əgz.apət.tsu:lus.tsɪnkəf]と発音するが、

で示したようにこの時hapetのh音は発音されず、またaksの音が[əgz]と濁っている。

このような変化をZarnetef(有声化)と呼ぶ。

2.子音+f,v,w

終声子音とf,v,wの音が連続した場合は、終声子音と語頭のf,v,wが結合し、唇音化、つまりwの音があるように発音される。これをヒューシェア語では

例としては、Is wade [jusˈwadə](彼らの仕事)などが挙げられる。

3.s+母音

sで終わる単語は、母音で始まる単語と結合する時sがZarnetef(有声化)し、/z/に音が変わる。

また、この時有声化しているsと子音クラスタを構成している子音も同様に有声化する。

例：Aks aliuktar zen [əgz.əlɪuk.ta:]

(私は彼を騙した)

4.t+c,z,sc

c,z,scで始まる単語の前では、前の単語の語末のtが黙字化する。

例：Aks yepit zes [əks.jəpɪt.tsəs]

(私は彼と取引する)

5.緩衝母音 e

子音が3回連続する時、連続を避けるために緩衝母音としてe/ə/が入れられることがある。これは常に/ə/と発音されるため、学習用の教材などでこの音を表現する際は、eと綴られる。

例：Aks pint Hiuscenp [əksə.pɪnd.ɪʊfənp]

(私はヒューシェア語を学ぶ)

・アクセント

ヒューシェア語のアクセントは強勢アクセントであり、基本的には第一音節に置かれるが、いくつか例外が存在する。

1.アクセント記号

“Acent Fretef”というアクセント記号(´)が着いている単語では、その音節にアクセントを置く。

2.二重母音

単語内に二重母音があるときは、その二重母音がある音節にアクセントがくる。なお、ここで言う二重母音とは *Telen Vokal* の事であり、ヒューシェア語における、ai, au, ou の三種類の二重母音を指す。

例えば、inair という単語は i.nair という2音節に区切ることが出来るが、この場合2音節目の nair/ne:/ にアクセントが来る。

3.三音節以上の語

三音節以上の多音節語では、後ろから2つ目の音節にアクセントが置かれる。

4.複合語

二つの言葉が合わさった複合語では、後ろの単語のアクセントがアクセントとして採用される。

単語と品詞

・品詞

ヒューシェア語の品詞は次の通りである。

1. 名詞

名詞はヒューシェア語を構成する基本的な名詞のひとつであり、その中にいくつかの種類の名詞を内包している。

1-a. 普通名詞

普通名詞は、一般的な対象を指し示す名詞のことである。例としては“*Barg*”(ウマ)や“*Neus*”(船)などが挙げられる。

1-b. 固有名詞

固有名詞は唯一性を有する名詞を指す。例えば人名や地名であり、“*Miscal*”(ミシャル)や“*Oscarland*”(オスカーランド)などがあげられる。これらの単語の語頭は大文字で表記される。

1-c. 概念名詞

概念名詞は、抽象的な概念を指し示す名詞である。普通名詞とは区別される。例えば“*Rihes*”(物事)のような触れることの出来ないもの、“*Democrasce*”(民主主義)などの思想、“*Ada*”(外)といった方向や領域がこれにあたる。これらに「特定の」というニュアンスを含ませたい場合、擬似冠詞が付属することがある。また、場合によっては複数形をとることもある。

2. 代名詞

代名詞はヒューシェア語を構成する品詞のひとつである。
おもに人称代名詞としての形で頻出する。以下に記述する。

2-a. CeとTuの使い分け

Ceは二人称の丁寧形、Tuはより親しみを込めた形である。
フォーマルな場ではCeを使うことが当然推奨される。

2-b. 敬称

ヒューシェア語ではフォーマルな場では人名に敬称をつける風習がある。これは英語のMr. やフランス語のM.に近い。

ヒューシェア語では男性にはMaister/Mst.を、女性にはDina/Dn.をつける。

・人称代名詞の表

	一人称単数	二人称単数敬称	二人称単数親称	三人称単数男性	三人称単数女性	一人称複数	二人称複数	三人称複数
主格	Aks	Ce	Tu	Zer	Zos	We	Yu	Er
属格	Mai	Cai	Tes	Zes	Zos	Res	Yai	Is
対格	Me	Ce	Te	Zen	Zor	Res	Ye	Er
与格	Mai	Cai	Tes	Zes	Zos	Ra	Yen	Ese
具格	Mei	Cei	Ter	Zei	Zei	Rei	Yai	Este
奪格	Med	Cer	Ter	Zer	Zon	Red	Yer	Eset
向格	Mai	Cai	Tes	Zes	Zos	Rai	Yei	Este
処格	-	-	-	-	-	-	-	Ese
呼格	-	Ces	Tes	Zeis	Zeis	-	Yes	-

ヒューシェア語での指示代名詞は、近称と遠称、単数と複数の違いによって4種類に弁別される。これらの形容詞は定性を与えるための形容詞としても使用される。なお、指示代名詞の格変化の形式は普通名詞の中性名詞に依存する。

近称単数 ... *Ki* 遠称単数 ... *To*
 近称複数 ... *Ker* 遠称複数 ... *Ter*

例 : Kisc mai niusen graf
 /kiʃ me: niusən graf/
 (これは私の新しいペンです)

・再帰代名詞

ヒューシェア語では、他動詞の主語と目的語が同じ時は再帰代名詞を使用する。再帰代名詞は例外的に、動詞の前に再帰代名詞が来る。

再帰代名詞は以下の通り。

一人称：mé

二人称：cé

三人性：zé

例：Aks mé lewte balnei

/əks me læwtə balnei/

(私はお風呂で自分を洗う)=お風呂に入る

文法解説

・格変化

ヒューシェア語の一般名詞における格変化は日本語のそれに近く、単語の末尾に「格接辞」と呼ばれる接尾辞が付着し、その前にある語の格変化を担う。このため、ヒューシェア語は膠着語に近い言語とされる。格変化の種類自体は非常に豊富であり、さらに名詞は全て「通性」と「中性」に分類されるため格の種類は非常に多い。通性は基本的にeで、中性はaで語尾が終わるがその限りでない場合も多いため一概には言い切れない。

なお、主格と呼格は現代の口語においてはあまり使用されず、台詞や慣用句での出現がほとんどであり、通性名詞は処格を持たない。そのため実際に覚える必要があるのはわずか13の格接辞とその変化形のみである。

・格変化一覧

	通性	中性
主格	sc	c
属格	(e)z	(e)s
対格	te	e/r
与格	on	on
具格	ei	ei
奪格	o	o
向格	e	e
処格	—	et
呼格	i	i

・格接辞の説明

主格...「は」「が」に相当。主語を示す。

属格...「の」に相当。所有を示す。
対格...「を」に相当。目的語を示す。
与格...「に」に相当。動作の対象を示す。
具格...「で」に相当。手段や道具、原因を示す。
奪格...「から」に相当。動作や範囲の起点を示す。
向格...「に」「まで」「へ」に相当。動作や範囲の着点を示す。
処格...「にて」。位置的な地点を示す。
呼格...「～よ」に相当。呼び掛けを示す。

※注記

時間的な地点を示す際は処格ではなく与格を用いる。

例 : Aks fittar 6 erezuilon

/əks fɪtɑː ʔsɪwɪtɑːd ʔsəgs ərətsuilon/

(私は豚を6日前に食べた)

※「見る」などの体のパーツが登場する動詞や、感情の動詞、移動動詞の目的語には向格を使う。

例 : Aks wede tes

/əks wəde təs/

(私は君を見る)

・格接辞の変化形

格接辞には変化形が存在し、単語の末尾の音に合わせて格接辞が形を変える。

また、一音節の単語は母音が欠落しない。

1. 語末が**k,g,c,j,f,v,z,t**で終わる単語では、主格通性格接辞が**s**になる。

例 : Mai amík **s** fist Miscal

/meː əmɪks ʔfɪst mɪʃal/

(私の友人はミシャルです)

2. 語末が**sc,s**の場合は、主格通性格接辞が**z**になる。

例 : To aik fist frisci

/To eːk ʔfɪst frɪʃɪ/

(そのヤギは喜んでいます)

3. 語末が**s,sc,z**の場合は、属格通性格接辞が**a**になる。

例 : To owes **a** neuzersc Mst.Margemor

/to ʌwesa nəʊtsəː mɑːgemoː/

(その羊の飼い主はマーゲモーさんです)

4. 語末が**t,d**の場合は、属格通性格接辞が同化して**z**となる。

例 : To heiz ebezer

/to hæɪts əbetsə:/
(その町の男)

5.語末が**k,g,sc,j,s**の時は、主格中性格接辞が**z**になる。

例 : Pinos**z** dirdet,liuk**z** arnefaidet
/pɪnosts dɪ:deɑ: lɪukts ə:nefedət/
(敵は敗れ、光が溢れた)

6.語末が**c,j,t,d**の時、主格中性格接辞が**s**になる。

例 : Polic**s** direider zes.
/pɒlɪtʃs dɪreɪde tsəs/
(警察は彼を逮捕した)

7.母音+**r**で終わる単語のとき、対格中性格接辞が**d**になる。

例 : Imageis vener**d**
/jumæɪs wənə:d/
(未来を想像してみて)

8.iを除く母音で終わる名詞は、母音で始まる格接辞が付着する時に母音が欠落する。ただし人称代名詞、1音節で終わるものは例外。

例 : Aks fit **tɛi**
/əks fɪt tɛɪ/
(私はそれで食べる)

例 : Zer zodede kugulard fekis**on**
/tsə: tsodedə kugula:d fɛkɪson/
(彼は武器に弾を込める)

9.o,i以外の母音で終わる1音節の単語に与格格接辞**on**が付着する際は、変形して**-yon**となる。

例 : Aks kin nu**yon**
/əks kɪn nujon/
(今行きます)

10.格変化によってCCCの子音連続が起こる場合は、緩衝母音“e”を挿入して解消する。

例 : Agest**e**s fist wirosen inairef
/əgestəs fɪst vɪrosən junerɛf/
(心は理解するのが難しい)

11.語末が**e,a**の単語の時は、通性/中性を問わず

向格“**e**”は**r**になる。また、それ以外のiを除く母音の場合は接辞が“**ye**”となる。

例 : Aks liuk lɪster**r**
/əks lɪuk ju:stɛ:/
(私は公園を見る)

12.母音で終わる単語のあとでは、対格中性格接辞がrdに変化する。

例：Zer flidide Bibliord

/tsə flididə bibliɔ:d/

(彼は本を読む)

・借用語

・無変化名詞

ヒューシェア語には「無変化名詞」と呼ばれる、格変化によって形を変えない名詞も存在する。これらの大多数は地名や人名等の固有名詞であり、代わりに前置詞や語順によって文中での関係を示すことが出来る。

1.無変化名詞になる名詞

無変化名詞は国名(ex.*Ferys Oscarland*)といったものや、地名(ex.*New Brighton, Scinkio*)といったもの、また人名も無変化名詞となる。これらは変化しないため大半の格を語順で推測しなければならないが、属格、向格、奪格、処格のみ前置詞で表す。

1-a.属格

無変化名詞の属格は前置詞“o”で表される。

なお、このOは基本的にいつでも大文字で用いられる。例えば「ヒューシェアの」は“O *Hiuscea*”となる。

この形はしばしば単なる名詞の属格としても使用されることがある。

例：Hanim O *Hiuscea* zout

1-b.向格/奪格

向格は前置詞“en”で、奪格は“ap”で表される。

例えば「モエリントからリートローまで」は“ap *Moelint en Lirtrau*”となる。

1-c.処格

処格は前置詞“ad”で表される。

例えば「カシュテジャの戦い」は“pivos ad *Kascteja*”となる。

・疑問文

1. 疑問文

一般疑問文の場合は、疑問文を表すマーカー“**Vo**”を主語の前に設置することで疑問文となる。疑問詞を使用する場合は、“**Vo**”に加えて文中の疑問点に疑問詞を設置することで使用出来る。また、名詞の疑問詞も一般の名詞と同じように格変化し、副詞の疑問詞も動詞の前におかれる。ちなみに、疑問文への返答には、「はい」を表す“Si”、「いいえ」を表す“Nar”を用いる。

・疑問詞一覧

Vo : 疑問文を表す標識単語。主語の前に置く

Vad : どこ...名詞として使う。

Vup : だれ...名詞として使う。

Vun : いつ...名詞として使う。

Vet : なに...名詞として使う。

Vut : いくつ...名詞として使う。

Vin : なぜ...副詞として使う。

Vur : どう,どんな...副詞として使う。

例 : Vo ce cek Miscal?

——Nar, Aks zi Theodor

/wo tʃə tʃək 'mɪʃal/ /na: əks tʃi tæodo: /

(あなたはミシャルですか？

——いいえ、私はタオドーです。)

例 : Vo ce cek vup?

/wo tʃə tʃək wup/

(あなたは誰ですか？)

例 : Vo zos venot fin vunon?

/wo tʃos wənot fɪm wunon/

(彼女はいつ来ますか)

例 : Vo ce frenerekar vetard?

/wo tʃə frənereka: wəta:d/

(あなたは何かを買いましたか？)

例 : Vo zer vin derde to nizleten rihesard

/wo tʃə: wɪn də:də to nɪtsletən rɪhesa:d/

(なぜ彼はその変なことをしたのですか)

例 : Vo ce vur inairek kide esforisard zes niusen pikutur

/wo tʃə wu: ju:nerek kɪdə əsforɪsa:d tʃəs niusən pɪkutu: /

(どうやってあなたはこの彼の新作の絵画の情報を知ったのですか)

2. 疑問詞の縮約

文頭で疑問文を示す **vo** は、その後に続く形容詞、あるいは主語が母音で始まる時に形を変える。

2-a. vo + aks の縮約

この形の縮約では、vo と aks が結合し、vasc という形になる。

例 : Vasc hait plametef carard

/wɑʃ he:t plametəf tʃara:d/

(私は車を運転出来ますか?)

2-b. Vo + 三人称複数の縮約

この形では主格形は ver となり、属格形は vis となる。aks と違い、全ての格変化における形が変化する。

例 : Ver wadelmaitais vunon?

/wə: vadɛlmetɛ:s vunon/

(彼らはいつ就職しますか)

・否定

1. 単純否定

ヒューシェア語では、否定したい単語の前に“na”をつけるだけで否定することができる。また、二重否定を用いて強い肯定を表すことも出来る。

例 : Aks na zi Marcas

/əks na tsi ma:tʃas/

(私はマーチャスではありません)

例 : Na beitz na inairais ce

/ na bæitsna junere:s tʃə/

(ない人があなたを知らない)=(あなたを知らない人はいない)

2. 形容詞・副詞の否定

形容詞や副詞も同様に“na”で否定することが出来る。

例 : Ce cek na cruken

/tʃəʃ tʃək na tʃrukən/

(あなたは悪くない)

3. naの縮約

naが母音とyで始まる単語を修飾する場合は、naが縮約を起こして被修飾語に結合する。この時、縮約であることを示すためにnと被修飾語の間にアポストロフィーが挿入される。この時被修飾語の語頭のi,yは読み方が/i/に変わる。

例 : N'importen beit

/nɪmpo:tən bæit/

(ランダムな人)

・提示表現

ヒューシェア語には、「～がある」「あれは～だ」というように、何かを指し示すときに使える提示表現という形式がある。

これを提示表現という。

提示表現は、Tosc C(補語)で表される。

例 : Tosc da tour ATT O Tiselint

/toʃ da tu: (ATT) o tɪsɛlɪnt/

(あれがATTティセリントタワーです)

例 : Tosc ain miert

/toʃ e:n miə:t/

(猫がいる)

・修飾詞

1. 形容詞

形容詞を使って修飾する際には、前置修飾の形をとる。名詞などが同時に後置修飾されていても影響されない。ただし、複数の形容詞を一語に対して使う場合は後置修飾になる。なお、ヒューシェア語では形容詞のほとんどに“-en”がつくようになっているため、形容詞の判別は容易である。

例：Tiscdeten pirweit pivosei
/tɪʃdetən piːweit pivosei/
(戦いで壊れた橋)

1-a. 形容詞の補語的用法

主語が形容詞を補語としてとる時、形容詞は補語形に変化する。補語形は形容詞語幹(enを取り除いた形)に接尾辞-iを付加することで作ることが出来る。形容詞語幹が母音で終わる場合は、この接辞は-seiに変化する。

例：Aks zi diusi
/əks t̪si diusi/
(私は疲れている)

例：Toc zi louse
/tot̪ t̪si luːsə/
(それは軽いです)

※色の修飾について

色名を使って修飾する時は、例外的に接辞 -en が付かず、そのまま後置修飾される。

例：Zer fist ain beit nigz
/t̪səːfɪst eːn bæit nigts/
(彼は黒人です)

1-b. 国籍/地域の形容詞形

国籍や地域を示すときは、形容詞接尾辞-enが-ienとなっていることが多い。

例えば「ヒューシェアの」はHiuscienとなる。

以下にヒューシェアとその周辺国の形容詞の図を示す。



例 : Zer fist ain Ílimien
 /tsə: fɪst e:n ɪlɪmɪən/
 (彼はイリミア人です)

例 : Aderien Esces Spagetti
 /əderɪən əfəs spagetɪ/
 (アデリア風魚介スパゲッティ)

2. 副詞

ここでは副詞のうち一般副詞について記述する。(モード副詞は後述)
 一般副詞は動詞の直前に置かれ、前置修飾される。なお、ヒューシェア語では形容詞と同じように必ず標識“-us”がつくようになっている。

例 : Odésus zriek yovate
 /ʌdesus tsɹɪək jovatə/
 (膝を強くぶつける)

2-b. 副詞の連続

モード副詞も含め全ての副詞は連続することを嫌う傾向にあり、1つの単語に対して副詞を2つ以上使用したい場合は間にetを挿入することが推奨される。また、ヒューシェア語では「新しきを知る」のように副詞・形容詞を単体で目的語にすることが出来るため、こちらの方法も推奨される。

副詞、形容詞を目的語にする時と、感嘆文で使う時は接尾辞-us, -enを取り除き語幹の形にする。

なお、これらの語幹は格変化しない。

そのため、無変化名詞のように扱われる。

例 : Wilto, Dafius et odésus hugeis me
/vɪlto dafius ət ʌdesus hugekeɪs mə/
(ヴィルト、私をずっと強く抱きしめて)

例 : Inair asek, fet elmait nius.
/juneɪ əsək fət əlmeɪt niʊs/
(古きを温め新しきを知る)

例 : Vur darc ki beit!
(なんと可哀想な男か！)

3.節による修飾

被修飾語の直後から修飾節を続けることで、文章によって修飾することができる。

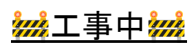
関係詞にあたるものが存在しないため、どこからが修飾節かを読み取る必要がある。修飾節も主節と同様に屈折するが、主節と主語が同じ場合は主語を省略する。

例 : Barg Etras niude fende herose
/bɑ:g ɛtras niudə fəndə hərosə/
(アトラスが飼っている馬がこちらへ来た)

4.形容詞の目的語

日本語で「～するのが～だ」となるような文章を作る場合は、形容詞の後ろに動名詞の与格形を加えて表すことが出来る。

例 : Aks zi wirosen liukefon tord
/əks tsi virosən liukefon to:d/
(私はそれを見るのが難しい)



5.分詞

ヒューシェア語にも他の印欧語のように分詞があり、これを使うことで動詞を形容詞的に使った修飾が可能になる。なお、現在分詞は節修飾に吸収されてすでに廃れており、現代語には過去分詞しか残っていない。

過去分詞は受動のニュアンスを常に有する。

-et動詞 é miudet > miudé

-st動詞 é crist > criscé

-ait動詞 -eté hirpait > hirpeté

-sc動詞 -é > colasc > colascé

hapetの過去分詞 ave

haude > aude > aue > ave

過去分詞は動詞の原形に接尾辞を付加することで作ることができるが、この接尾辞が動詞の型によって微妙に変化し、また被修飾語が通性ならば“-é”、中性であれば“-én”となる。ちなみに、過去分詞はいかなる場合でも後置修飾される。

5-a. et型動詞の場合

et型動詞の場合は、動詞の語根に-é/-énを付けることで表す。

例：

5-b.st型動詞の場合

5-c.ait型動詞の場合

5-d.sc型動詞の場合

例 : Martin Merite wedaid ain cabrard levén

/ma:tin məritə vɛdɛ:d tʃabra:d ləvɛn/

(マーティン・マリタと忘れられた部屋※)

※ヒューシェアで最も人気の娯楽小説シリーズ、「マーティン・マリタ」の3作目。本作の邦題は「マーティン・マリタと忘却の部屋」となっている。

5-b.不規則変化

動詞原形	fit (食べる)	kin (行く)	fin (来る)	zi (である)	jedait (持つ)	der (する)
過去分詞	faite	kais	fais	fes	abezén	déd

・接続

接続詞には以下の8種類が存在する。

順接 : fet/fət/ 「ので」「そして」に相当。

逆説 : fiu/fiu/ 「しかし」に相当。

累加 : yerz/jə:ts/ 「さらに」「しかも」に相当。

並立 : fin/fɪn/ 「また」「and」に相当。

選択 : fen/fən/ 「或いは」「or」に相当。

結論 : tiwed/tɪwed/ 「結局」に相当。

転換 : so/so/ 「ところで」に相当。

説明 : pas/pas/ 「なので」「じゃあ」に相当。

※注記

fetで動詞を接続した場合は、単純接続となり「～し、～する」のようになり、動詞同士の間
に時間の差が生じる。

一方、finで接続した場合は「～ながら」のニュアンスで接続できる。

pasはその性質上あまり文では使用されず、口語で使われやすい傾向にある。

例 : Zos corpirter adosard fet wabrer

/tsos tʃo:pɪrɐ: ədosa:d fɛt vabrea:/

(彼女は道に迷ったので泣いた)

例 : Aks zimus lepe fiu markin marke

/əks tʃɪmus lɛpɐ fiu ma:kɪn markɐ/

(私は時々立ち止まっても前へ進む)

例 : Zer fist fileten yerz freken

/t͡səːf t͡fɪst fɪletən jəːts frəkən/
(彼は背が高いししかも優しい)

例 : Kola fin Evan
/kola fɪn əvan/
(コーラと水)

例 : Kola fen Evan
/kola fən əvan/
(コーラか水)

例 : Tiwed, Ta zkolc fist fen riscil.
/tiwəd ta t͡skolt͡f t͡fɪst fən rɪʃɪl/
(結局、学校は休みだった)

例 : So, vo ce finek vado?
/so wo t͡fə fɪnək wado/
(ところで、あなたはどこから来ましたか?)

例 : Aisesz zais zmalen pas zais winscen
/eːsəsz t͡seːs t͡smalən pas t͡seːs vɪnfən/
(子供は小さいから可愛いのだ)※

※「鉄は熱いうちに打て」と同様の意味を持つ格言である。

・比較

1.比較級

比較級は、優等比較、劣等比較、同等比較の三種類に大別される。

優等比較は「～より○○だ」

劣等比較はその逆を、同等比較は同等を表す。

優等比較は形容詞の語幹(enを取り除いた形)に比較級接尾辞-oをつけて表す。

さらに比較相手を示すには、形容詞の直後に“urp”を置いて表す。

また、具体的な差を示す時は比較対象の後ろに“arro”を示してから具体的な差を置く。抽象的な差を示す時は動詞を副詞で修飾する。

例：Miscal fist fileto urp Etras

/mɪʃal fɪst fɪleto u:p ətras/

(ミシャルはアトラスよりも背が高い)

例：Miscal yertus fist fileto urp Etras

/mɪʃal jə:tus fɪst fɪleto u:p ətras/

(ミシャルはアトラスよりもかなり背が高い)

例：Miscal fist fileto urp Etras arro 10cm

/mɪʃal fɪst fɪleto u:p ətras ə:ro/

(ミシャルはアトラスよりも10cm背が高い)

劣等比較は形容詞の前に否定を表す“na”を置いて表す。この形は優等比較よりも主語が強調され、ニュアンス的には「残念なこと」として捉えられがちな文章となる。

例：Miscal fist na fileto urp Etras

/mɪʃal fɪst na fɪleto u:p ətras/

(ミシャルはアトラスよりも背が高くない)

同等比較は比較対象を示すときに前置詞“urp”ではなく、「～と同じ位」を意味する“meta”を使う。このときに形容詞を“na”で否定すると、「～は××と同じほど○○ではない」という文章となる。

例：Miscal fist fileto meta Etras

/mɪʃal fɪst fɪleto mɛtə ətras/

(ミシャルはアトラスと同じ位背が高い)

例：Miscal fist na fileto meta Etras

/mɪʃal fɪst na fɪleto mɛtə ətras/

(ミシャルはアトラスと同じほど背が高くない)

2.副詞の比較級

副詞を使って比較を表現する際は、形容詞inenの比較級を副詞で後置修飾することで表す。
劣等比較を行う際はN'inoとなる。

例 : Fesc zinkeis ino leusus
/fəʃ ʔsɪnkeɪs juːno leʊsus/
(もっとゆっくり話してください)

3.最上級

最上級は形容詞語幹に“-erd”を接続することで表すことが出来る。対象や範囲を示す場合は、定冠詞+最上級のあとに、比較対象/範囲の処格形を置いて示す。

なお、最上級では劣等比較や同等比較は存在せず、最上級を否定してもそれは単に「1番○○というわけではない」という意味になるだけである。

例 : Aks zi da fileterd pritiet
/əks ʔsɪ da filetəːd prɪtiət/
(私は友人たちの中で1番背が高い)

例 : Aks na zi da fileterd pritiet
/əks na ʔsɪ da filetəːd prɪtiət/
(私は友人たちの中で1番背が高い訳ではない)

・冠詞

1.定冠詞

前置定冠詞“**Da**”が存在する。

擬似冠詞の発達により本来の冠詞は衰退しており、専らdaで修飾される名詞が「このあと固有名詞として後置修飾される」というのを表すために用いられるか、あるいは絶対的な唯一性を有するものにのみ付けられる。Mandes(世界)やMenz(月)のようなそもそも「世界に一つしかない」ものを除き、定冠詞で就職された単語は固有名詞扱いとなり、格変化させることが出来なくなる。

例 : Da Madis Fuji(富士山)
例 : Da Mandes(世界)
例 : D'agest O Yamato(大和魂)

2-a.冠詞の縮約

冠詞が母音かyで始まる単語を修飾する場合は、縮約を起こして被修飾語に結合する。この時、縮約であることを示すため、冠詞と被修飾語の間にアポストロフィーが挿入される。この時被修飾語の語頭のi,yは読み方が/ɪ/に変わる。

2.擬似冠詞

ヒューシェア語独特の文法範疇として、
擬似冠詞という概念が存在する。

疑似冠詞は概念名詞の範囲を限定する働きがある。

疑似冠詞は通性名詞につく“**Ta**”、中性名詞につく“**Te**”のふたつがあるが、伝統的に通性で見なされるいくつかの単語を除いては専ら**Te**が使用される。

例：T'ada((特定の)外)

2-a. 疑似冠詞の縮約

疑似冠詞が母音かyで始まる単語を修飾する場合は、縮約を起こして被修飾語に結合する。この時、縮約であることを示すため、冠詞と被修飾語の間にアポストロフィーが挿入される。この時被修飾語の語頭のi,yは読み方が/i/に変わる。

例：Odésus forseis t'akauserd

/ʌdesus fo:seis tako:sə:d/

(音をしっかり聞いて)

3. 不定冠詞

ヒューシェア語にも周囲の諸言語と同じように不定冠詞“**ain**”が存在する。これは基本的には形のある名詞にのみ付く。なお、複数になった場合はつかない。

例：Aks worte ain fipol

/əks vo:tə e:n fɪpɒl/

(りんごが欲しいです)

・屈折

ヒューシェア語では主語が二人称と三人称の際に、動詞の屈折が起きる。

屈折によって主語を示すことが出来るため、屈折がついている時は主語を省略することが可能となるが、主語の欠落は威圧的なニュアンスで取られてしまうため、命令文以外で主語を欠落させることは少ない。

1. 二人称屈折

主語が二人称の際は接尾辞“**-ek**”を動詞に付加して屈折を表す。単数複数は問わない。他の接辞と同じように、語末の音に合わせたいくつかの変化形を有する。

1-a.i活用

iで終わる動詞の語末と“**-ek**”が繋がった場合は原則軟口蓋化するが、いくつか例外がある。

例外はsi,zi,hiで終わる動詞で、変化は以下の3種類。

- ・si-ek → scek
- ・zi-ek → cek
- ・hi-ek → xek
- ・ti-ek,di-ek → cek

1-b.母音活用

語末がeやaなどの“i以外の母音”の動詞は、二人称屈折の変形接辞“**-s**”を使う。

例：Ce cek Miscal.

/tʃə tʃək mɪʃal/

(貴方はミシャルです)

例：Tu rievās vaderd?

/tu rievās wadə:d/

(何を書いていますか?)

例：Ce lepes touet

/tʃə ləpəs tu:ət/

(貴方はそこで立ち止まる)

2. 三人称単数屈折

三人称単数屈折は接尾辞**-rt**と接尾辞**-de**の二種類に大別できる。

原則母音で終わる動詞は**-rt**を、非母音で終わる動詞は**-de**を使う。詳しくは下記のページの項で説明する。

2-a.de活用

子音で終わる動詞はre活用のものを除き、原則**-de**接尾辞を使用する。**-de**はt,dで終わる動詞の末尾を吸収する。

また、mで終わる動詞は語幹が-nの形に変化し、“n-de”の形をとる。

例 : Zer fridide bibliard
/tsə: frɪdɪdə bɪblɪa:d/
(彼は本を読む)

2-b.re活用

原形が子音で終わる動詞のうち、p,b,k,gの前では接尾辞**-re**を使用する。

例 : Zer zriekre
/tsə:ʃ tsrɪəkrə/
(彼はぶつける)

2-c.rt活用

母音またはrで終わる動詞は、接尾辞**-rt**を使用して三人称屈折を表す。

この接尾辞はrで終わる際は**-t**に変化する。

例 : Zer legort
/tsə: lægo:t/
(彼は横たわる)

※注記

上記の全ての屈折接辞は、CCC、つまり三連続子音を回避するために、緩衝母音を挿入する必要がある。緩衝母音を挿入した場合は末字が“e”となるため、接尾辞**-rt**を使用する。

例 : Zer flinkert
/tsə: flɪnkə:t/
(彼は忘れる)

3.三人称複数屈折

主語が三人称複数の際は接尾辞“-ais”を付加する。接尾辞-aisは1パターンしか存在しない。iで終わる母音全てがiを取り除かれ、zi-aisはzaisに、hi-aisはxaisとなる。

例 : Er zent prities o Etras
/ə: tsənt prɪtɪəs o ətɾas/
(彼らはアトラスの友達だ)

4.不規則動詞

他の動詞がそうであるように、もちろんヒューシェア語にも不規則変化をする動詞がいくつかある。

以下に表を示す。

・不規則動詞の一覧(抜粋)

一人称 (現在形)	zi (である)	fit (食べる)	kin (行く)	fin (来る)	der (する)	tiu (生きる)	zink (言う)
二人称	cek	fese	kes	fés	des	tou	zies

三人称 单数	fist	fede	kir	fir	det	scét	zike
三人称 複数	zent	dent	kent	fent	den	cet	zenke

・数詞、序数

1.数詞

ヒューシェア語の数詞は次の通り。

なお、ヒューシェア語の数詞は例外的に形を変えず形容詞的な使用法ができる。当然名詞としても使用が可能である。

Ain ...1
Con...2
Creis... 3
Vitor...4
Envi...5t
Zegs...6
Zepet...7
Oket...8
Neun...9
Tec...10
Aperain...11
Apcon...12
Creistec...13
Vitortec...14
Envitec...15
Zegsetec...16
Zepetec...17
Ogetec...18
Neudec...19
Codec...20
Codec-ain...21
Codec-con...22
Codec...creis...23
Conapcon...24
Codec-envi...25
Tecreis...30
Tecvitor...40
Tecenve...50
Tezegs...60
Tezepet...70
Tecogete...80
Tecenoun...90
Manut...100

25~99のうちここに書かれていないものは、21や25のように「十の位と一の位をハイフンで繋げる」ことで表せる。

例：Mai plurcen-pitirsc jedaide tecogete-vitor zilain

/me: plu:tʃən pɪtɪ:ʃ ʒədɛdɐ tətʃogetə wito: tsɪle:n/
(私のおじいさんは84歳です)

2. 序数詞

いずれも接尾辞-*ad*を付加することで表すことができる。

例：Ain^{ad} zanus(長男)

3. 個数表現

ヒューシェア語では個数を表現する時には数詞を前置するだけでよい。当然、数詞の被修飾語となる単語は数に合わせてその形を変える必要がある。

例：Con mierte^z(2匹の猫)

例：Conapcon dete^s(24時間)

4. 数詞の範囲指定、概数表現

4-a. 範囲指定

数詞の範囲を指定したい場合は、無変化名詞と同じように*en*や*ap*を使って表す。

例：En con ap envi minutes(2から5分)

4-b. 概数表現

概数、大まかな数を表現する時は、「だいたい」を意味する形容詞*kert*を使用する。

例：Kert codec fipous(だいたい20個のりんご)

5. 暦

ヒューシェア語には12の月と7つの曜日があり、それぞれ固有の名前を持つ。

1. 月

ヒューシェア語の「月」は全てレギミア語での名称に由来する。正式な月名称の隣に、カレンダーなどで一般に使用される省略形を記載する。

1月：Yanar / Yan.

2月：Febrar / Feb.

3月：Marc / Mar.

4月：April / Apr.

5月：Mai / (省略形なし)

6月：Yuni / Yun.

7月：Yuli / Yul.

8月：Aust / Aus.

9月：Zetember / Zet.

10月：Oktober / Okt.

11月：November / Nov.

12月：December / Dec.

2. 週, 曜日

曜日も同じくレギミア語名に由来している。こちらと同じく省略形を正式名称の隣に記載する。

なお、週も月も無変化名詞である。

月曜日 : Lunai / Lun.

火曜日 : Marti / Mar.

水曜日 : Mercuri / Mrc.

木曜日 : Yovi / Yov.

金曜日 : Veneri / Ven.

土曜日 : Zabati / Zab.

日曜日 : Zouli / Zou.

例 : Zilkets fist 1 Mercuri O Yanar

/tsɪlkəts fɪst e:n mətʃuri o jana:/

(今日は1月1日の水曜日です)

・数

全ての可算名詞には単数, 複数の区別が存在する。概念や不可算の物体は不可算名詞に数えられる。

1. 単数形

単数形は無標で表されるが、不定冠詞ainを伴う。

詳しくは冠詞の項を参照。

ヒューシェア語では擬似冠詞のついた単数形が「概念そのもの、全て」を表す事があり、その文脈で使う時は敢えて複数形を使わない時がある。

例 : Aks nahait fitef te fezosard

/əks nahe:t fitef tə fətsosa:d/

(何も食べられない)

2. 複数形 - 通性名詞

2-a. 通性名詞e型

通性名詞のうち、r,n,t,d,f,v,c,j以外の子音で終わるものは語末に接尾辞“-e”がつくことで複数形になる。

例 : Neus(船) → Creis Neuse(3隻の船)

2-b. 通性名詞s型

通性名詞のうち、n,r,f,vそして母音で終了するものは複数形接尾辞に“-s”をとる。

例 : Dekrer^s O Da Unis Cotevil

(チョテヴィル村の娘たち※)

※ヒューシェアを代表する自然主義小説。平凡でのどかな田舎を舞台に少女たちの性愛と破滅を赤裸々に描く。

2-c. 通性名詞z型

通性名詞のうち、t,d,c,jで終わる名詞は複数形接尾辞に“-z”をとる。
この時cで終わる単語は末尾が“-tz”になる。

例：Creis ewosen ziwit^z(3匹の子豚)

例：Envi Polit^z(5人の警察官)

※注記

これらの複数形接尾辞は、全てCCCを避けるために緩衝母音-eを挿入することがある。
なお、-eが挿入されても複数形の型は変わらない。

例：Miert(猫) → Con Miert^{ez}(2匹の猫)

なお、複数形によって子音が変われば当然格接辞も変動する。

3. 複数形 - 中性名詞

3-a. 中性名詞e型

m,rを除く子音で終わる中性の単語は、複数形接辞“-e”が複数形を表す。

例：unis(村) → vitor unis^e(4つの村)

例：aroport(空港) → con aroport^e(2つの空港)

3-b. 中性名詞u型

Lで音が終わる単語は、lをuに変え、語末に接尾辞“-s”を付け足すことで表す。

例：Fipol(りんご) → con fipou^{us}(2つのりんご)

例：Zkol(学校) → zes zkou^{us}(彼の学校たち)

3-c. 中性名詞i型

m,rで音節が終わる単語はeではなく“-i”で表す。

例：pikatur(絵) → zes pikaturiⁱ(彼の絵画たち)

例：saizer(椅子) → envi saizeriⁱ(5脚の椅子)

3-d. 中性名詞in型

母音で終わるもののうち、eで終わるものは語末のeを“-in”に置き換えることで複数形にすることが出来る。

例：wonde(円) → wondⁱⁿ

例：zerte(線) → zertⁱⁿ

3-e. 中性名詞n型

母音で終わる名詞のうち、e以外の母音で終わるものは接尾辞“-n”を付けることで複数形にすることが出来る。

例：biblio(本) → bibliⁿ

例 : zadai(音) → zadai**n**

4.複数形 - 外来語由来のもの

外来語由来の単語の複数形のルールは、固有語のよりも幾分シンプルである。

4-a. 外来語由来基本型

ラテン語やギリシャ語といった外来語由来の単語の複数形は、原則“-(e)s”を付けるだけで表すことができる。

例 : ain cart → envi cart**es**(5枚のカード)

4-b. ラテン語i型(女性名詞型)

ラテン語由来の単語のうち、aで終わるもの、及び“Républik”や“Émperium”といった政体に関わる語は特別に複数形接辞に“-i”を使用する。

例 : To vumis jedaide con ántennai**i**
/to wumɪs ʒədɛdɛ tʃon antenne:/
(その虫は2つの触覚を持っている)

4-b. ギリシャ語is型

ギリシャ語由来の名詞の中で、語尾が-isで終わるものは、語尾のisを“-es”にすることで複数形にすることが出来る。

例 : Éulipsis(省略) → Éulips**es**

5. 不可算名詞における数量の表し方

不可算名詞の数量を表したい場合は、「いくつかの, 適量の」を意味する形容詞“vaviten”を使うか、もしくは「〜と同じぐらい」を意味する前置詞“meta”を使うことで表せる。なお、複数を表す不可算名詞はその性質上三人称単数の動詞を取る。

例 : Evan(水) → Veviten evan(適量の水)
: Evan meta ain yune(コップ1杯の水)

・時制

ヒューシェア語には現在形を含めて、5つの時制がある。いずれも相と深い関係にあるが、なかでも過去形は特に相と密接に結びついている。

1. 進行構文

これは進行構文と呼ばれ、現在形の範疇の中に含まれる一種の熟語である。この構文は英語の現在進行形のように、「現在～している」という訳し方ができる。

zi fin(～の上に)の後ろで本来の動詞を動名詞化して表すことが出来る。

例 : Aks zi fin kinef cai gomose

/əks tsi fin kinəf tʃe: gomosə/

(私は今あなたの家に向かっている)

2. 単純過去形

動詞の末尾に接尾辞“-tar”を置く。2人称の場合は接尾辞“-ar”、3人称の場合は原則“-(e)t”となる。この単純過去時制は「発話時点で既に動作が終了した」というニュアンスを含む。

また、いくつかの動詞が不規則な変化をする。

不規則変化のリストは下記に記載する。不規則変化動詞も同様に屈折する。

例 : Aks liuktar ton

/əks liukta: ton/

(私はそれを見た)

例 : Ce liukar ton

/tʃə liuka: ton/

(貴方はそれを見た)

例 : Maria liukt ton

/maria liukt ton/

(マリアはそれを見た)

2-a.-rt活用動詞の過去形

rt活用をとる動詞の三人称単数形過去形には特別なルールがあり、原形が開音節で終わるものは語末にeがつくことで過去形を表す。

例 : T'apeitosz deterte.

/təpɛɪtosts dɛtɛ:tə/

(その時代は終わった)

・不規則変化をする動詞一覧(抜粋)

現在形 (原形)	zi (ある)	hait (出来る)	kin (行く)	fit (食べる)	fin (来る)	zink (言う)	zwepe (寝る)	der (する)
過去形	fes	ineum	kene	fite	fene	zout	zwit	derd

(一人称)								
過去形 (二人称)	fis	iwek	kek	fesc	fek	zouk	zwik	derk
過去形 (三人称)	fiste	inude	kint	fest	fint	zouk	zwik	dert

3. 複合過去進行形

複合過去進行形では動詞hapetを使い、本来の動詞を過去分詞化させて表す。この時制は単純過去と違い、その出来事が起きた時に重きを置いている。日本語では「～したものだった」、「～していた」と訳せる。

また、「見つけた」など動作の結果が存続する過去形もここに入る。

例 : Aks zoulus hapet zinkef cod tu heroset
 /əks t̪su:lus hapət t̪sɪnkəf t̪dod tu hərəsət/
 (君とよくここで話したものだ)

例 : Aks hapet menetef tord
 /əks hapət mənetəf to:d/
 (それを探していた)

4. 複合過去時点形

複合過去時点形も動詞hapetを使い、過去進行形のように表すが、この時はhapetが過去形になり、これで「経験」、すなわち「～したことがある」という意味になる。この受精のニュアンスは英語のhave beenのそれに近い。

例 : Aks hapet**tar** kais to cinémar
 /əks hapeta: ke:s to t̪ɪnema:/
 (私はその映画館に行ったことがある)

5. 未来形

助動詞“venot”を用い、後ろの動詞を動名詞形で表す。ヒューシェア語の未来形は予定や意思、強い断定や確定した未来も表すなどとても範囲が広い。venotは助動詞であるため、人称や時制に合わせて屈折する。

例 : Aks **venot** fitef tord
 /əks wənət fitəf to:d/
 (私はそれを食べるだろう)

・態

態には能動態の他に、受動態と可能態が存在する。それぞれの表し方は以下の通りである。

1. 受動態

1-a. 動作受動

動作受動は1回きりで終わる動作動詞に対して使われる。同じように主語と目的語を入れ替え、動詞hapetを使い、その後ろに動詞を過去分詞形で置くことで表すことが出来る。動作受動態は「その動作が今行われている」というニュアンスを与える。なお、動作主を示す場合は与格形をとる。

例 : Aks fit tortaird

/əks fit to:te:d/

(私はケーキを食べる)

例 : Tortaisc hapede faite mai

/to:te:ʃ hapedə fe:tə me:/

(ケーキは私に食べられる)

1-b. 状態受動

状態受動は動詞ziを使用する。他の表し方は動作受動と一緒に、状態受動は動作受動よりも「動作の結果起きた結果」にフォーカスする文章となる。つまり、状態受動では「という状態である」というニュアンスが強く、その結果が存続しているということが表せる。

例 : Tortairc fist faite mai

/to:te:tʃ tfist fe:tə me:/

(ケーキは私に食べられている)

例 : To derac fist fledezén

/to dərətʃ tfist flədetsen/

(そのドアは閉められている)

1-c. 受動態の時制変化について

受動態も当然時制が変化する。特に動作受動の形は過去形で使われることの方が多い。動作受動においては既にその動作が終了したというニュアンスを与え、状態受動ではその状態が今では終了しているというニュアンスになる。なお、動作受動の複合過去形においてはhapetの重複が起き、その場合はこのような文章になる。

例 : To tortairc hapeder hapetef faite mai

/to to:te:tʃ hapədə: hapetəf fe:tə me:/

(そのケーキは私に食べられたことがある)

2. 可能態

可能態はヒューシェア語の未来形と同じように、助動詞haitを使用して表す。
同様にhaitも屈折する。haitは不規則変化する助動詞であり、過去形では“lneum”となる。
ineumのiはユではなく「イ」と読む。
過去形は「現在ではできない」というニュアンスを含む。また、否定形であるnahaitはnaとの間に分かち書きを設けずに使用される。
なお、このnahaitを使用して
「～することが出来ない」=「決して～しない」という表現ができる。

例 : Aks hait fitef fipolard
/əks he:t fitəf fɪpola:d/
(私はリンゴを食べられる)

例 : Zer ineunde fitef fipolard
/əks ineundə fitəf fɪpola:d/
(彼はリンゴを食べる事が出来た)=今は出来ない

3.使役構文

これは文法範疇としての態ではなく、動詞を使用した構文の一種である。
「SがAにBさせる」という使役の文章は、ヒューシェア語では動詞“Hiub”を使用してあらわす。助動詞の時と同じように本来の動詞は動名詞化される。
また、使役構文を利用して自発のニュアンスを表すことが出来る。

例 : Aks hiub fitef tord zes
/əks hiub fitəf to:d tsəs/
(私はそれを彼に食べさせる)

例 : Zes pikutursc hiubre armeitef liuperd o Adal ra
/tsəs pikutu: hiubrə ə:meɪtəf liupəd o ədal ra/
(彼の絵画はアダルの愛を我々に感じさせる)
=彼の絵画にはアダルの愛が感じられる

・法

直説法の他に、命令法、接続法、仮定法の4種類が存在する。ここではそれらに加えて希求の表し方についても記す。

・直説法

シンプルな直説法についてはここでは割愛する。代わりに、ここでは無生物主語構文と呼ばれる直説法の一形態について解説する。

非人称構文とは英語におけるIt rains~のように、意味上の主語を必要としない代わりに、形式主語が置かれる構文のことである。

前述のIt rainsにあたる文章を題にとると、このようになる。

例 : Zos odésus adede

/ʔsɔs ʌˈdesus ədedə/

(雨が強く降る)

ここでは動詞adet(文中adede)が「雨が降る」を意味するため主語は必要ないように思えるが、ヒューシェア語では必ず文に主語が必要であるため、形式上の主語zosが置かれている。

なお、下記の文章のように、SVOO形式の文章では文末に「誰に」が来る。

Zos wortert frenerɛf ɛnvi fiornaifɛrd tɔrd mai

/ʔsɔs vɔːtɛːt frɛnɛrɛf ɛnvi fiɔːnɛfɛːd tɔːd mɛː/

(それを買うのに5フォーネフ※かかった)

※...ヒューシェアの通貨単位。5フォーネフは約600円程度。

※...worteは「要求する」「(金額,犠牲などが)かかる」という意味でも用いられる。

※...動名詞は格変化出来ないため、必ず動詞の後ろに置く。

・命令法

命令法は、自対象命令法と他対象命令法の二種類の使い分けが存在する。自対象命令法は命令の対象が自身であるか、または自身を内包する時に使用される。他対象命令法はそうではない場合を指す。

また、命令法においては動詞は屈折しない。

自対象命令法では接尾辞“-(e)se”を、

他対象命令法では接尾辞“-eis”を使う。

例 : Pleitese Hiuscea!

/plɛɪtesə hɪuʃɛa/

(ヒューシェア万歳(慣用句的))

例 : Aks fitesɛ tɔrd

/əks fɪtesə tɔːd/

(私はそれを食べなければならない)

例 : Ce fiteis tord
/tʃə fiteis to:d/
(それを食べなさい)

・接続法

接続法は命令の婉曲表現や意思を含んでいる時、反実仮想や意思、想定、発話時点と引用元の時制が違う間接話法などで使われる。

表すためには動詞を接続形に変化させる必要があるが、変化させるにあたっては動詞のタイプによって複雑なルールが存在する。

なお、接続法には単純過去形しかない。

1. 一人称の接続

1-a. 短音節型

最も多い型。動詞原形の第一音節をaに変え、語尾に-eneをつける。このタイプの接続形は第一音節に短音節、つまりaiやerなどの長音を含まない動詞に適用される。

例 : Zer forset aks **kanene** t'yerte
/tʃə: fo:sət əks tʃə: kanenə tɹə:tə/
(彼は私がその駅に行くと聞いた)

例 : Vo tu wortek aks **famene** te creisewe
/vo tu vo:tək əksfamənə tə tʃrəisewə/
(あなたは私にその大会に来て欲しかったの?)

1-b. 短音節開音節型

動詞原形の第一音節をaに変え、語尾がeで終わるものは語尾に-inを、そうでないものは語末の母音を取って-einをつける。このタイプは短音節型のうち、母音で終わるものを含む。

例 : Er wortert aks **bavein** ain doktoron
(彼らは私が医者になることを願っている)

1-c. 長音型

長音型は第一音節がai, au, Vrなどの長音を含む動詞の総称であり、この型の動詞は接尾辞-enを使用する。

例 : Aks worte forsi**en** mai houze
/əks vo:tə fo:siən me: hu:tʃə/
(家に帰りたいなあ)

※...ヒューシェア語では、主節と修飾節の主語が同じ場合は主語を省略する。

1-d.軟音型(口蓋化型)

軟音型(古い文献では口蓋化型とも)は、第一音節に母音連続*ie*や*iu,io*などを含む動詞のことを指す。このタイプは*ie*等の音節が*il*になる。

例 : Aks worte **ri**va mai zkiscard
/əks vo:tə riva me: tskɪfa:d/
(自分の小説を書きたいなあ)

2.二人称の接続

2-a.単音節型

動詞の二人称現在形に*-en*をつけ、第一音節を*e,i*なら*é*、それ以外なら*a*に変える。
基本は一人称における短音節型接続法のそれと同一である。

例 : Aks worte tu **fémeken** res zkole
/əks vo:tə tu femekən rəs tskolə/
(君が学校に来てくれたらなあ)

2-b.短音節開音節型

動詞原形の第一音節を*a*に変え、開音節動詞の二人称現在形に接尾辞*-en*を付ける。

例 : Vo tu zies **baveken** ain doktoron?
/wo tu tsiəs bavekən e:n doktoron/
(君は医者になれると自分で思う?)

2-c.長音型

長音型は一人称の時と同じように動詞の現在形に接尾辞*-en*を付ける。

例 : Aks worte ce virtet**en** cai gomose
/əks vo:tə tʃə wi:tetən tʃe: gomosə/
(あなたが家に帰れる事を願っています)

2-d.軟音型

軟音型は、動詞原形の最後の母音に*-te*を付けることで表す。語末の子音は原則消えるが、*-t*の時は語末が*tte*に、*-s*の時は*ze*に変形する。

例 : Aks zink tu aliut**e**
/əks tsɪnk tu aliutə/
(君は嘘をつくと思う)

例 : Vo tu worte zkie**ze** ta naredintei
/wo tu vo:tə tskɪətsə ta naredintɛɪ/
(海外で成功したい?)

3. 三人称の接続

3-a. 短音節閉音節型(de型)

動詞の三人称活用は他と違い、原形語末の終声子音ではなく、三人称単数の屈折の形で接続の方法が変動する。

de型は-de活用、-re活用の動詞を接続法で使う時に用いられる。動詞の三人称現在形の第一音節をaに変え、接尾辞-neを付けるだけである。

例 : Aks hapet trunem zer fandene

/əks hapət trunəm tsə: fandenə/

(私は彼が来ると信じていたのに)

3-b. 短音節開音節型(rt型)

開音節型に分類される基準は前述した通りである。rt活用の動詞がここに分類される。

動詞の原形に接尾辞-enがつくことで接続法になる。

例 : Aks zink zer yepous forsiēn

/əks tsɪnk tsə: jəpu:s fo:siən/

(彼は帰るべきだと思う)

4. 不規則変化する動詞

不規則変化する動詞については一覧を下記の表に記す。

・不規則変化する動詞(抜粋)

原形	hait (できる)	zi (である)	(持つ)	flink (忘れる)	zwepe (寝る)	der (する)
一人称	hareni	care	jadene	flage	zwane	derene
二人称	harekin	cesc	jarden	flésen	zwapen	dareken
三人称	haredis	carede	jarede	flage	zwape	darden

5. 接続法中の受動態と助動詞、時制について

接続法では現在形以外の時制が存在しない。そのため、接続法の時制は一般に存在する主節の時制に依存する。また、助動詞を付ける際、直説法では動詞が動名詞化するが、接続法では動名詞化せず、接続法の形のまま助動詞の後ろに来る。

例 : Vo tu hapetekar tinkef aks hait famene herose?

/wo tu hapeteka: tɪnkəf əks he:t famenə hərosə/

(君は私がここに来れると思っていたのですか?)

・假定法

ヒューシェア語では、假定法を表すときには、条件を示す*rou*を使用して帰結節を示し、専用の接続詞*fe*を使って条件節と帰結節を繋げることで表すことができる。なお、假定法の文中では動詞は接続形を取る。ヒューシェア語では本来の假定法の役割を接続法が果たしているため、假定法は条件を示す文として用いられる。

また、假定法には未来形が存在しない。

1. 假定法現在

假定法現在は、単純な条件を示す。假定法という名前であるが、実態としては条件法に近い。

例 : Rou ce cesc wirti fe zos adede
/ru: tʃə tʃəʃ vi:ti fə tsos ədedə/
(雨が降ればあなたは喜ばます)

2. 假定法過去

假定法過去は、「～だったなら」という過去の条件を示す。

・希求法

これは正確には構文の一種であり、実態としてこの文法範疇が存在するわけではないが、ヒューシェア語で広く使われる構文である。

まず、「～したい」を表すには、希求の標識として動詞“*worte*”を置き、その後ろに動名詞で本来の動詞を置く。*worte*が動詞扱いになるため、本来の動詞は動名詞形をとる。

例 : Aks worte fitef tord
/əks vo:tə fitəf to:d/
(私はそれを食べたい)

・モード副詞

ヒューシェア語独自の品詞として、副詞の中に「モード副詞」(ヒューシェア語にならってタクロッサン副詞とも)と呼ばれる分類が存在する。

モード副詞は副詞として機能し、伝聞や断定といった証拠性や、限定、問い掛けなどモダリティ的な要素を表すことが出来る。一般副詞と違い語尾が“-*us*”で終わるとは限らないが、副詞であるため動詞の前に置かれる。

役割は助動詞に近いが、別の品詞と解釈される。

1. 推量のモード副詞

推量のモード副詞には大まかに分けて4種類の副詞が存在する。

これらのモダリティは否定の“*na*”と併用することが可能であり、こうすることで負のニュアンスも表すことが出来る。

断定(100%) : *Fulnos*

推測(70~80%) : *Yapous*

推量(50%) : *Frit*

可能性(30%) : *Miken*

例 : Zos yapous venode adetef lizelon
/tsos japu:s wənodə ədetəf litʰselon/
(明日は雨が降るだろう)

例 : Zer miken menede ain beitarð
/tsə: mɪkən mənədə e:n bəita:d/
(彼は人を探しているのかも)

2. 立場のモード副詞

一般に「立場のモード副詞」と呼ばれるモード副詞は、強調や念押し、確認といった細かなニュアンスを伝えることが出来る。これらは副詞として機能する。

~~正直接辞usのない副詞をそう呼んでいるだけである。~~

2-a. 確認のモード副詞“sor”, “si”

これらのモード副詞は相手に同意を求めたりする際に用いられる。また、口語的な用法ではあるが文末に付着することでも機能する。

例 : Tes irwefc sor fist Miscal?
/təs ju:wəftʃ so: tfɪst mɪʃal/
(あなたの名前はミシャルですよね?)

例 : Tes irwefc fist Miscal, si?
/təs ju:wəftʃ fɪst mɪʃal si/
(あなたの名前はミシャルですよね?)

2-b. 偶然のモード副詞“lesc”

モード副詞lescは動詞の偶然性、つまり日本語で言うところの「～てしまう」を表すことができる(完全な対訳ではない)。また、接尾辞-usを付加された上で、「偶然に」を意味する普通の副詞としても使われることがある。

例 : Zer lesc webre!!!
/tsə: ləʃ vəbrə/
(泣いちゃった!!!) 出典：ちいかわ第1巻

2-c. 丁寧のモード副詞“fesc”

モード副詞fescは疑問文や命令文などと合わせて、丁寧さを表すことが出来る。平叙文でも使用可能。

例 : Tiosi! fesc flinkese res
/tiosi fəʃ flɪnkəsə rəs/

(神よ！我らを許したまえ)

2-d. 推奨のモード副詞“dor”, “plie”

モード副詞 *dor*, *plie* は「～すべき」という推奨のニュアンスを表せる。*dor* は一般に平叙文で、*plie* は疑問文で使われる。また許可を求める疑問文でも使われる。

例 : We dor zink fet der SDGs

/və do: ʔsɪŋk fət də: əs.də:.gə:.əs/

(私たちはSDGsを考え、実践すべきだ)

例 : Vasc plie fiscar derard?

/wəʃ plɪə fɪʃa: dəra:d/

(ドアを開けてもいいですか?)

※注記

plie は行動を行っていいか聞くことが出来る一方で、「～出来る」を表す *hait* は「能力の有無」を提示するに過ぎないため、例えば「ドアを開けていいか」という質問をする時は *plie* を使うのが正解である。

2-e. 許可/適当のモード副詞“gek”

gek は「～しても構わない」を意味する。単に許可を与えるだけではなく、日本語で言うところの「勝手にすれば?」に近い、適当のニュアンスも併せ持つ。また、これとは別に *pile* の返答にも使用される。

例 : Si, tu gek fiscarek

/sɪ tu gək fɪʃarək/

(はい、ドアを開けてもいいですよ)

2-f. 意志のモード副詞“plir”

plir は主に進行構文とセットで使用され、「～するつもり/ところだ」という意思を表す。英語で言うところの *going to* や、フランス語の近接未来がこれに該当する。

例 : Aks plir zi fin kinef en Moelint nuon.

/əks plɪ: ʔsɪ fɪn kɪnəf ən moelɪnt nuon/

(今モエリントに行くところなんです)

2-g. 比喩のモード副詞“star”

star は比喩のモード副詞であり、「まるで～だ」という意味を表す。動詞の前ではモード副詞だが、意味の都合上文頭に来ることも多い。一般には文頭にきた場合強意のニュアンスも包含するとされる。

例 : To star fist noketen heide lekte aks na inair ároplaner aks escen

/to sta: ʔfɪst noketən həɪdə lɛktə əks na june: aroplanə: əks əʃən/

(飛行機の窓から見下ろした知らない街の夜景みたいだ)

例 : star ce flinkek, we flink
/sta: tʃə flɪnkək və flɪnk/
(あなたが許すように私達も許します)

2-h.強調のモード副詞“ernen”

強調のモード副詞“ernen”は形容詞や動詞を修飾し、「～すぎる」という意味を表す。

例 : Tu ernen fese mang fet tu cek irsen
/tu ə:nən fɪtək mang fət tu tʃək ju:sən/
(君は多く食べすぎるので太っている)

・接地詞

ヒューシェア語には他の言語と同様に、時間や位置関係を表すための前置詞、設置詞が存在する。

時間のカテゴリと位置のカテゴリに分けて記す。

1.位置の設置詞

Fin /fɪn/ ...～の上に。
Af /əf/ ...～の下に。
Fer /fə:/ ...～の近くに。
En /ən/ ...～の中に。
Es /əs/ ...～の外に。
Bir /bɪ:/ ...～と～との間。
Efre /frə/ ...～の周りに。
Ter /tə:/ ...～を貫通して。を貫いて。
Crans /tʃrans/ ...～を横切って
Zaf /tsaf/ ...～の上へ向かって。

2.時間の設置詞

時間は位置を示す単語を使用した与格表現が発達しているため、あまり設置詞は生産的ではない。

Reira /rəɪra/ ...時間的な前。
Audol /o:dol/ ...時間的な後。
Bolus /bolus/ ...(時間での)～まで。

・挨拶

ヒューシェア語にはいくつか挨拶の種類がある。

朝や昼、夜を問わないカジュアルな出合いの挨拶には“Cepriti”を使用する。

また、朝～昼のフォーマルな場では“Jiten llerm”を、日没～夜は“Jiten Nowtus”を使う。

別れの際の挨拶には、「再び話したい」を意味する

“Wortidink”が使われる。

また、謝罪する時には「私の悪さです」という意味で“Mai pitef”(私の悪)と言うが、

日本語で言う「すみません」に該当するのは“Afecuk”である。

お礼を言う時には「あなたに感謝する」という意味の、“Yerat cai”が使われる。

caiをtesに変えるとよりカジュアルになる。